

わが莫逆の友○○○君の死を惜む。君は余りにも、泉途に赴くを急いだ。後進に道を譲ったとは言え、君の影響は今も大いなるものがあり、君を頼りにしている人々は数多い。

君の突然の訃報に、大いなる指針を失った悲しみに暮れる者の少なくないのも、無理からぬことである。かく言う私もまた、一人愕然たる思いに耽る者である。

○君とは、若年より友情を温めた仲であった。幾晩、夜を徹し天下を論じたことである。図らずも、兩人共政界に身を投じた。君は傘下に多くの人々を擁してきたが、しかし君にも敵が無かったわけではない。現にこの私にとっても、君はよきライバルでもあった。時には友より敵の方がより、人間を磨くに効験のあるものだ。よき友であり、よきライバルでもあった君が、いかに大切な存在であったかは、言葉には尽くせぬものがある。

君は地方行政にきめ細かな手腕を発揮したが、常に大局を見通す目を備えていた。君の業績は有形無形の記念碑となつて、長く人々の間に残ることであろう。

私は敢えて、ここでその一つひとつを顕彰することは控えよう。何故なら、決して君がそれを望みはしないことを知っているからだ。君は地下水のように社会を潤すことを終生の望みとした政客であった。

ただこれだけは、君の霊前に誓いたい。君が起案し、そしてその路線を敷いた、○○○市の○○○計画に関しては、私の力の及ぶ限り実現への努力を払うつもりである。なお、志とともにして来られた方々も、○○○君の死によつて後退することなく、遺志を引き継いでいただきたい。

さて、ご遺族の方々には、お慰めの言葉も無いが、○○○君のような、夫を、父を持ったことを誇りとし、それを支えとして強く生きられるよう切磋する次第である。

別れに望んで、いつまでも哀惜の念は断ちがたいが、君の充実した人生を想う時、この上は塵界を遠ざかった彼岸の浄福を心より祈るばかりである。

○○○君は、たった一人残されるお嬢様のことを、一番心にかけておられたに違いありません。最愛のお父さまを喪われた、お嬢さまのご心中を思うと、本当に胸が痛みます。

この痛手から立直れるには、時間がかかるかも知れません。しかしいつまでもお嘆きに身を任せていらっしやるのは、決してお父さまの御霊を慰めるものではありません。まい、日本人の気を吐いてくださいますように、それが何よりのご孝養かと思えます。

最後に、○○○君の御霊の、永遠に安らからんことを祈りつつ、お別れに際する、私の言葉の一端といたしたいと思います。

平成○年○月○日